

北海道におけるほっけ（道北系群）の資源管理の取組について

1. 資源状況

我が国周辺水域のほっけは主に北海道周辺水域に分布。このうち、日本海北部からオホーツク海に広く分布し、漁獲の大半を占める道北系群の資源状況については、資源水準は低位、動向は減少と評価。

<参考：ほっけ道北系群の生物学的特性（概略）>

寿命：8～9歳

成熟開始年齢：1歳の終わり～2歳の終わり

産卵期・産卵場：9月中旬～11月上旬、日本海北部の岩礁域、利尻・礼文島の沿岸及び武蔵堆の最浅部

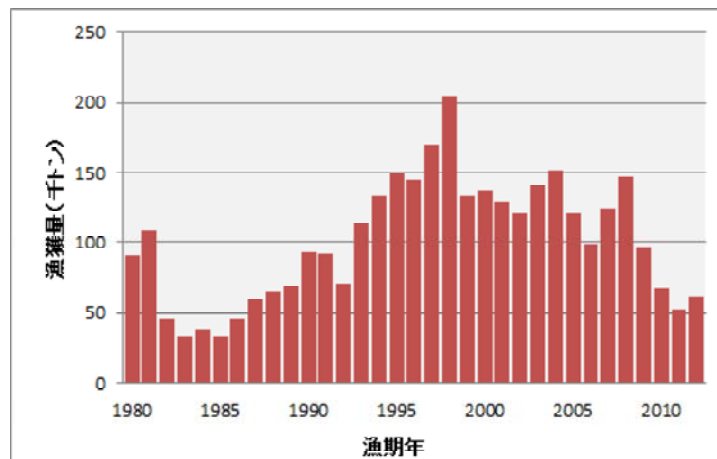
索餌期・索餌場：稚魚・幼魚期に主としてオホーツク海の表層、着底後に大部分は日本海に移動

食性：稚魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は様々な種類の動物を捕食

2. 漁獲状況

・沖合底びき網漁業を主体とし定置網漁業、底建網漁業、刺し網漁業などの多種多様な漁業種類により漁獲。

・漁獲量は1980年前半に10万トンから3万トンまで減少したが、その後増加し、1990年代前半には10万トン台まで回復。その後も増加傾向が続き、1998年には20万トンを超え、その後10万トンを超えて推移したが、2009年以降漁獲量は急減。2012年の漁獲量は6.2万トン。



ほっけ道北系群の漁獲量

(我が国周辺水域の漁業資源評価票をもとに作成)

3. 資源管理措置

・近年の資源状況の悪化と漁獲量の減少を受け、北海道では、漁業者、行政、試験研究機関が協力し、自主的な資源回復対策に平成24年秋から平成27年夏までの3年間取り組むことを決定。

・将来的に10万トン程度の漁獲が持続的に確保されることを目標として、資源を支える未成魚の保護と産卵親魚の確保のために、地区別・漁業種類別に漁獲量又は漁獲努力量を3割程度削減する措置を取り決め、資源管理措置を実施中。

4. 平成25年における自主的資源管理措置の取組状況

地区	漁業種類	取組内容	平成25年の取組実績
小樽地区	沖合底びき網漁業	漁獲努力量の削減 (操業隻日数の削減)	操業隻日数：430隻日 (過去5カ年平均：675隻日)
	底建網漁業	漁獲努力量の削減 (操業日数の削減)	延べ操業日数：1,115日 (通常約1,600~1,800日程度)
	刺し網漁業	漁獲努力量の削減 (一定漁獲量を超えた際の 操業自粛・漁場移動)	一定漁獲量を満たさず
留萌管内	えびこぎ網漁業	漁獲努力量の削減 (操業日数の削減)	延べ操業日数：430日(通常610日)
	底建網漁業	漁獲努力量の削減 (操業期間の短縮)	操業期間：4ヶ月(通常5ヶ月)(天塩) 操業期間：3ヶ月(通常4ヶ月)(遠別)
宗谷管内	沖合底びき網漁業	漁獲量の削減	漁獲量：15,832t(稚内・枝幸) (過去5カ年平均：29,515t)
	底建網漁業	漁獲努力量の削減 (操業期間の短縮)	操業期間：6ヶ月(通常10ヶ月)(利礼) 操業期間：5ヶ月(通常7ヶ月)(枝幸)
	刺し網漁業	漁獲努力量の削減 (操業期間の短縮) (目合規制)	操業期間：7ヶ月(通常10ヶ月) 目合規制：71mm以上に拡大 (漁業権行使規則上は70mm以上)
	中型まき網漁業	漁獲努力量の削減 (操業期間の短縮) (入網回数の削減)	操業期間：13日(通常41日) 入網回数：5回/日(通常7~8回/日)
北見管内	沖合底びき網漁業	漁獲量の削減	漁獲量：3,056t(紋別・網走) (過去5カ年平均：9,759t)
	底建網漁業	漁獲努力量の削減 (操業期間の短縮)	操業期間：173日(通常269日)
	定置網漁業	漁獲努力量の削減 (操業期間の短縮)	操業期間：63日(通常102日)
	刺し網漁業	漁獲努力量の削減 (操業期間の短縮)	操業期間：133日(通常244日)

※沖合底びき網漁業については平成24年9月から平成25年8月までの取組実績